

# 令和五年度 奈良県租税教育推進連絡協議会長賞

## 税金は「払わ」ず、「寄付」する

青翔中学校 三年 瀬尾 和花

私はアレルギー持ちでアレルギー検診のために通院している。しかし、最近になって気付いたことがある。通院費用が税金によって一部負担されていることだ。幼いときから通院していたため、通院費用など何も気にしていなかった。でも思い返してみれば、数年前に高校生になった兄の通院費の負担額が増えていた。その時から少し疑問を持っていたが、まさか税金が関係していたとは思っていなかった。

調べてみたところ、未就学児は二割、小学生からは三割自己負担となり、それ以外は公的医療制度から支払われるのだ。また、多くの市区町村では、通院・入院ともに中学生まで援助してくれる。このような援助の中に税金が使われていたのだ。今まで知らずに通院していた自分が恥ずかしく、申し訳ないという気持ちになった。

そういえば、私の祖母が最近入院した。ほんの数日ではあったが、初めてということで少し大変だったのを覚えている。少し話が飛んで、祖母から退院の予定の連絡が届いた。その中に入院費などの費用についても書かれていたのだが、意外にも安くて驚いた。母親にそのことについて聞いてみると、「自己負担額を超えると、超えた分の費用が戻ってくるっていうのがあるんだよ。超えた分は国などが負担してくれるんだけど、そこには税金が入っているんだよ。」と教えてくれた。税金がこんなところで役立っているのだと、初めて税金がちゃんと使われていることを知ることができた。

他の国では医療費を援助してくれるところが少ない。そんな中、日本ではこれだけたくさんの援助があり、税金によって一人一人が支えられている。そんなことも知らずに、税金なんて払っても無駄だと思っていた自分を叱ってやりたい。

でも正直、まだ成人していないがゆえに、消費税くらいしか税金の種類を知らなかった。実際は五十種類もあり、こんなに税金があるからこそ、自分のように少ない費用で医療が受けられていた。だから、税金についての知識が増えたことで、次は自分が税金で人を助けたいと強く思うようになった。普段買い物をする中で、高い消費税を「払う」ではなく人のために「寄付」すると、自分の考え方を始めに変えていきたい。そうして、成人してさまざまな税金を「寄付」するようになったとき、ポジティブな気持ちでできるようにしたい。

このように、まずは税金への考え方を一人一人が変えるべきだと思う。

「あんな高い税金、払ってどうするんだ。」と思う人が多いと思うが、そもそも、「払う」という考え方が間違っているのではないか。自分が税金で支えられている分を、今度は他の人に税金で「寄付」すると思えば、気持ちよくできるのではないだろうか。